第 2014-35 号

恵みと真理のニュース

2014 年 8 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

主の豊かな恵みで私の罪を赦して下さり、私達の親子に限りない愛と哀れんでくださって真の感謝を捧げます

祖母と祖父の影響で真実にイエス様を信じた母のおかげで私も子供の頃から踊りながら賛美し聖書を読み、きれいな木造の建物の教会で遊びながら育ちました。教会の高い鐘等あって執事が毎朝、紐を引っ張って鐘を鳴らし、主日になると礼拝時間を知らせる鐘の音が村の遠くまで鳴り響きました。祝祭日のたびに母はいっぱい北朝鮮の料理を作って神様に感謝の祈りを捧げました。涙を流し祈りを長くすると私達は早く母の祈りが終わるのを待ったことが今も忘れられない思い出でした。
中学校 2 年生になり私が好きだった高等部の会長が副会長の女と付き合うことで失望し教会に行かなくなりました。神様はこのような私に様々な神霊な体験をさせ相変わらず神様の愛と生きておられる事を表しました。無断横断をしてトラックとぶつかりそうな危機的な瞬間、奇跡のようにトラックが私のすぐ前で止まった事があり、夜誰かが私を起こす感じがして起きたら、隣りの部屋でねっていた妹が練炭ガスの中毒になりかけましたがすぐ発見し生かした事もあります。長い間神様を離れ、よく心が空しくなりひどく寂しくもなって一人の部屋でろうそくを付け泣いたりしました。パスカルの話のような神様だけが満たす空間がいつも空いていて寂しかったです。娘を産み、ついに神様の所に戻りました。
神様に対する初恋も回復し、母のように神様のところで娘を育てるため家の近くにある教会に行きました。しかし長い間教会と離れていたから礼拝を捧げても心の平安もなく、慰めにもならなかったです。説教の御言葉が耳に入らなく居眠りしました。
　その後から 4 年が経って 1992 年アンサンに引越し私の新しい人生が始まりました。神様は 2 階に住んでいた恵みと真理教会の首区域長に出会い、その方について教会の礼拝を初めて参加しました。当会長の御言葉に恵まれ礼拝の時間を切に愛するようになり礼拝が終わった後も説教のテープを繰り替えしながら聞きました。信仰が成長し、救いの確信と聖霊充満に対し切なくなりました。そして 1994 年ある日、礼拝をする時、心が熱くなり悔い改めて祈りました。
以後、この世を見る目線が変りました。神様が創った全ての被造物がそれぞれ特色と調和し神様の驚くべき知恵を表すことを見ながら動植物の模様と色と香りを作ったのだと驚嘆を禁じ得ないです。聖書を読む時にはまるでパノラマのような聖書の話と事件が私の頭の中で驚くように鮮明でした。もっと神様のことが知りたくなり御言葉の恵みを望み、その時から今日まで聖書読みを記録しながら熱心に聖書を読んで黙想しています。
残っている昔の自分の習性で大変な事が起こるとビール一杯を飲み寝る癖がありましたが、箴言２３節の御言葉を読み、“不幸な者は誰か、嘆かわしい者は誰か／いさかいの絶えぬ者は誰か、愚痴を言う者は誰か／理由なく傷だらけになっているのは誰か／濁った目をしているのは誰か。それは、酒を飲んで夜更かしする者。混ぜ合わせた酒に深入りする者。 後になると、それは蛇のようにかみ／蝮の毒のように広がる。”御言葉を読み、衝撃を受けてすぐお酒をやめました。
1998 年 5 月 暑理執事に任命され頑張って奉仕しました。聖歌隊員として奉仕するうちに神様がいげんの恵みを与えて下さり 2010 年 12 月には区域長の使命もくださいました。ところが私の収入が半分に減って、娘の大学卒業まで 1 年も残っていることに前が見えなくなりました。はじめは“まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば全ての事を与えると約束しましたよね。どころが、私達の生活がなぜもっと苦しくなるのですか？と神様に不平しました。時間が経ってもなかなか経済状況が変らなくて朝祈りを始めました。神様は神霊な悟りを与えてくださり助けてくださいました。今まで問題を全て神様に委ねなく不安と恐れで倒れそうだった私の心を神様はまず、慰めてくださり真の自由と平安を与えてくださいました。そして神様の摂理で経済的に大きい問題も解決しました。
人間的な考えと判断で御言葉が矛盾していると思いましたが、私の知恵が及ばない神様の深い知恵と真の摂理があることを後で悟りました。神様はもっと私に良い物で多く満たしてくださり、どんな状況でも揺れなく固く神様を信じ愛するように私の信仰を大きくしてくださいました。娘の就職のため切に涙を流しながら祈ると神様は“私はあなたの涙を見、あなたの祈りを聞いた。”答えてくださり最近若者が一番入社したい S 社に就職しました。
享年 2011 年夏聖書学校の時、聖霊様が私の心に感動を与えて下さり教会学校の子供達に英語でヨナの話を聞かせたきっかけで幼稚部と小学生の教師として奉仕するようになりました。神様は部署を通して英語を準備させてくださり、子供に英語を教えるように導いてくださいました。私は弱く足りないので朝祈り会に参加して神様に人に教える賜物を与えてくださることを祈った後、2012 年 6 月 9 日夏の聖書学校を開講して一年間頑張って使命を担えられました。 “この美しい万物を神様が作り、イエス様を信じると救われ天国に行く。”子供達の口からこのような信仰告白が英語で歌われる時本当に嬉しくて神様に感謝を捧げました。日々信仰が成長し楽しく英語で聖書勉強をする子供達と共にしながらやりがいがあり楽しい時間でした。イスラエルの民がヨルダン川を渡った後神様はヨシュアを通して十二部族を選び出しヨルダン川真ん中で（ エジプトでの恥辱を取り除いた。」子孫次々主の能力を与えたように私の若い時の恥ずかしさをなくしてくださり、今日真の神様の子供になり祝福ある人生を生きる恵みを与えた神様に感謝を捧げました。
これからの希望は相変わらず主を愛しいつどこでも忠誠する主の働き人として人生を神様に栄光ささげ、与えられた職分と使命に献身し、母が私にみせたように娘に信仰の元になるのです。そして娘が最近主の中で希望を持って片親に育つ子供達を神様の恵みと愛の中で成長するように献身して神様の国が大きくなるように用いられ、続いて後を取り信仰の名門の家庭を作る事です。この事のため私は今日与えられた事に最善を尽くすため努力し全ての礼拝と朝祈り会に参加して熱心に祈り、神様の恵みを求めます。良い神様は相変わらず助けてくださり私達を通して神様は栄光を受けることを信じます。ハレルヤ！

[信仰コラム]

多様な祈りと多様な答え

“絶えず祈りなさい“（１テサ 5:17）

信仰生活において一番大きな楽しみ　の中で一つは神様にお祈り申し上げることと答えを体験することです。被造物が創造主に、惰弱で事欠いている人生が全能の神様にお祈りできることと答えられることが悲しみと苦しみに満ちている世の中を生きている私たちにどれくらい嬉しく、ありがたく、誇らしいことか如何にしても言い切れません。
まず、祈りの種類について探ってみます。
第一、自分の願いを申し上げる祈りがあります。自分が願うことを神様に求める祈りは最も基本的であり、一般的である祈りです。しかし、私たちが求めるのが神様の品性と意志に沿うべきです。第二、悔い改める祈りがあります。自分が願うことを求める前に悔い改めるべきです。
神様と偶像を共に崇拝しながら祈ったり、貪欲で祈ると神様には答えて頂けません。第三、感謝する祈りがあります。助けを求める祈り以上に、神様に感謝の祈りを多くするべきです。第四、体と心の治癒のための祈りがあります。イエス様は病の治癒のために祈ることを何度も仰いました。弟子たちは主の指示に随順し、奇跡が表れました。第五、祝う祈りがあります。聖職者は信者に祝う祈りをする義務があります。父母は子供に祝う祈りをする義務があります。私たちはお互いに祝う祈りをする義務があります。
第六、他の人が　神様の許しと救いを得るように訴える祈りがあります。モーセが犯罪した民を哀れがれ、刑罰を下されないように専心に神様に求めたら神様が彼の祈りに答えられ、イスラエルの民を全滅しようとした怒りを収められました。第七、２人以上が心を合わせて唱える祈りがあります。イエス様は信者たちが集まって合心して祈ることを仰り、答えられると約束されました。第八、数日祈ることに決め込んで切に願う祈りがあります。三日、七日、十日、二十一日、三十日、四十日、このように数日を決込んで一定の時間、一定の場所で一人で、或いは多くの人が祈りをするのが有益です。第九、夜明かしをして切に求める祈りがあります。イエスが夜明かしでお祈りなさった後、夜が明けるとご自分の弟子たちを呼ばれ、彼らの中で１２人を選んで使徒と称されました。難しい問題や重大な問題を決定したり、解決するために徹夜で祈るようにイエス様が手本を見せて下さいました。第十、断食しながら切に求める祈りがあります。人の欲求の中に最も大きい食欲を抑制して祈るのに専念するのは決死の祈りに他なりません。
次は答えの種類について探ってみます。
第一、神様は祈る者に欠乏と貧乏を免れさせ、充足にして下されます。第二、神様は祈る者に知恵と明哲を下されます。第三、神様は祈る者に平安を下されます。第四、神様は祈る者に喜びと慰めを下されます。第五、神様は祈る者に病を治して下されます。第六、神様は祈る者を危機と苦境から救って下されます。第七、神様は祈る者に試しに勝てる力を下されます。第八、神様は祈る者に神様の言葉を伝える能力と伝道の扉を開けて下されます。第九、神様は祈る者に聖霊で充満させます。第十、神様は祈る者にいろいろな願いに答えて下されます。祈りは私たちのすべき事です。答えは神様のなさる事です。祈ることを忘れるか怠る人はいますが、神様は祈りに答えることを忘れられたり、怠けられることはありません。
皆さんは多様な祈りをしてください。そして多様な答えを受けるようになることを願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

信仰で暮す人の体験談

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

信仰は大きく二つの種類で区分することができます．信仰に係わる信じるがあって信仰に関係ない信仰があります．信仰的な信仰も二つの種類で区分することができます．神様に対する信仰と神様ではないことを神で仕える信仰です．　ヘブル人への手紙，11 章は神様を信じる人々が経験したことに対する記録です．彼らはイエス様が生まれる前に暮した人々です．聖霊様に対して今日の信者たちのようなふんだんな深い理解と体験を持つことができなかった人々です．それなのに神様を向けた彼らの信仰とその信仰によって経験したことは今日の私たちに立派な示しです．
今日はヘブル人への手紙 11 章に登場する人々の信仰と体験したことに対してよく見ます．

第一、信仰で暮す人は神様から義のあるという認定を受けます．

本文の 11 章 4 節に **“信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。”**と言いました．‘より良い祭祀’と言うのは‘より良いお供え物’を意味します．羊をお供えで差し上げたのがより良いお供えで認められたのです．アベルが羊飼いだから羊をお供えで差し上げたのではないです．カインは自分の趣向に当たる祭祀を差し上げました．しかしアベルは神様があたえるあがないの真理をそのまま信じました．アベルの祭祀は私たちの罪をあがないしようといらっしゃる救世主に対する信仰の祭祀でした．イエスキリストが私の罪をあがないするために十字架に釘付けて死なれたしその流した補血によって私があがないすなわち罪の赦しを受けたという事実を信じる人は神様から義のあるという判決を受けるようになります．

第二、信仰で暮す人は神様とお供する楽しさを享受します．

本文の 5 節と 6 節に **“信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。”**と言いました．創世記 5 章 24 節に **“エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。”**と言いました．皆さんもエノクのように神様がいらっしゃることを信仰で神様とお供してください．また神様を捜す者等に賞をあたえるかたとを信じて限りない賞を受けて神様を嬉しくする者になってください．

第三、信仰で暮す人は審判を免れて救いを得ます．

本文の 7 節に **“信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。”**
と言いました．

箱舟は，イエスキリストの中にある者は神様の震怒の審判を免れて救いをもらうようになるということを見せてくれる模型で影です．イエスキリストを信じる信仰の最終的結果は救いをもらうのです．ペテロの第一の手紙に記録されるのを **“あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。”（ペテロの第一の手紙 1:8,9)**と言いました．

第四、信仰で暮す人は神様の約束に基づいて常識と理性を超越する行動もするようになります．

本文の 11 節と 12 節にはこんなに記録されました．**“信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると、信じていたからである。このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海べの数えがたい砂のように、おびただしい人が生れてきたのである。”わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り。”（創世記，22:17)**と言った神様の口約束を固く信じました．そして 100 歳に息子を生むようになりました．アブラハムとサラ自分の行動を常識と理性に配置される行動だと判断する人々がいても気に止めなかったです．結局はその信仰どおりなりました．

五番目、信仰で暮す人はこの世の中にとらわれすぎないで天国を慕いながら生きて行きます．

アブラハムとイサクとヤゴブは大きい金持ちでした．それなのに高台広室を作って暮さないで幕屋に居住しました．移動しやすくてそうするのではなかったです．その理由がこんなに記録されています．**“信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。”（ヘブル人への手紙 11:9,10)**．

六番目、信仰で暮す人は自分が世を去る時が切迫しても未来を見越しながら祝福して最善をつくすようになります．

本文の 20 節以下に **“信仰によって、イサクは、きたるべきことについて、ヤコブとエサウとを祝福した。信仰によって、ヤコブは死のまぎわに、ヨセフの子らをひとりびとり祝福し、そしてそのつえのかしらによりかかって礼拝した。信仰によって、ヨセフはその臨終に、イスラエルの子らの出て行くことを思い、自分の骨のことについてさしずした。”（ヘブル人への手紙，11:20～22)**と言いました．

七番目、信仰で暮す人は世の中の安逸よりキリストのために犠牲することをもっと大きい価値で思うようになります．

本文の 24 節以下に **“信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。”（ヘブル人への手紙，11:24～26)**と言いました．世の中の安逸と享楽より神様を仕えて奉事するために犠牲と献身することをもっと好きな理由はその心霊の中に信仰があるからです．

八番目、信仰で暮す人は奇事と異蹟を体験するようになります．

イスラエル民たちはエジプトから解放されて紅海を渡って広野を通ってガナアン地を占領するようになる過程で幾多の奇事と異蹟を体験するようになりました．　**“信仰によって、人々は紅海をかわいた土地をとおるように渡ったが、同じことを企てたエジプト人はおぼれ死んだ。信仰によって、エリコの城壁は、七日にわたってまわったために、くずれおちた。”（ヘブル人への手紙 11:29,30)**と言いました．

九番目、信仰で暮す人は賢く立派な選択をします．

エリコの城のラハブはイスラエルの神様が全能な神様という事実を悟りました．そしてイスラエルの探りにきた者を助けてあげる決断をしました．本文の 31 節に **“信仰によって、遊女ラハブは、探りにきた者たちをおだやかに迎えたので、不従順な者どもと一緒に滅びることはなかった。”**と言いました．

十番目、信仰で暮す人は大きい問題に会っても胆大に対処するので勝利するようになります．

本文の 32 節以下に **“このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。”（ヘブル人への手紙　11:32～34)**と言いました．

十一番目、信仰で暮す人は脅威と危機に処しても一途な心の信仰を固守します．

バビロンのとりこになって行ったが高い官職に座るようになったヘブル人の青年 シャデラク、メシャクおよびアベデネゴ は溶炉の中に投げられても王の金の像の前にお辞儀をしなかったです．ダニエルは王の外に他の神にも人に祈る者は獅子の穴に投げこむという王の調書を見てからも神様に祈る事を廃しなかったです．彼らは神様の助けることで溶炉の中でも無事だったし，獅子の穴でも無事でした．それによって王が神様に栄光を奉げるようにしました．本文の 33 節と 34 節に **“ししの口をふさぎ、火の勢いを消したりして”**と言いました．

十二番目、信仰で暮す人は復活を思いながらあらゆる逼迫と患難を我慢して耐えます．

本文の 35 節以下にこんなに記録されました．**“女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。”（ヘブル人への手紙　11:35～38)**．極甚な逼迫とさまざまな患難の中にも喜びと感謝と勇気に生きて行くようになることは聖徒たちが持った信仰とその信仰の上に加える神様の能力によるものです．

今までヘブル人への手紙 11 章に記録された信仰で暮した人々が体験したことを皆よく見ました．聖徒の皆さんもヘブル人への手紙 11 章に記録された信仰の偉人たちのようにありがたい体験談を皆さん生涯の記録で残すように願いします．